

水田裏作へのイタリアン ライグラスのつくり方

栗山光春

西南暖地における水田裏作へのイタリアンライグラスの普及はめざましく、いまや青刈りエンバクにとって変わろうとしています。ことに水稻の早期栽培の普及に伴って、その後作として重要な地位を占めてきております。エンバクに比べ再生力が強く、刈取り回数も多く、したがって良質な生草を多量に生産しうるという点で、時代のちょう児となった観があります。

これからが播種期に入りますが、その作り方を簡単に述べることにします。

播種期＝秋早ければ早いほど、年内利用が可能で有利となりますが、年内刈取りが可能な播種期は、だいたい9月いっぱいまでです。瀬戸内海地帯では、11月中旬ごろまでが経済的播種期です。それ以後でもまけないことはありませんが、収量が下がってきます。山寄りや北部では、播種期は8月下旬から10月下旬までというように前にずれてきます。

耐寒性＝エンバクより強く、西南暖地では寒中に刈取っても、その後の再生には影響しませんから、飼料給与上からも非常に好都合です。しかし、早まきをしたばあい、草たけは年内に伸びますが、寒さのため葉先が枯れてきますから、伸びたままで冬越しさせるのは損で、草たけ50センチぐらいになったら利用していくのがとくです。

播種法＝ばらまきがよいのですが、耕起のが困難な場合は、うね幅45センチのすじまきとしてもけっこうです。また単播するばあいと、レンゲと混ぜまき、あるいはエンバクと混ぜまきすることもできます。単播あるいはエンバクと混ぜまきのばあいは、刈取り回数を多くして生草で利用するのに都合よく、レンゲの混ぜまきはサイレージ用または乾草用とします。

播種量＝ばらまきで2キロ、すじまきではいくぶん

減らします。レンゲとの混ぜまきはイタリアンライグラス0.5～1キロにレンゲ1キロとし、イネ間に中まき、あるいは水稻早期栽培跡地へばらまきします。**施肥量**＝きゅう肥2千キロ、硫安40キロ、過磷酸石灰40キロ、塩化カリ20キロを元肥とし、レンゲ混ぜまきのばあいは硫安を20キロに減らします。追肥は硫安15キロまたは塩化カリ10キロぐらいを、各刈りごとにおこないます。

化学肥料の代わりに尿素や牛尿を使ってもよく、尿素は成分に応じた分量とします。追肥の牛尿は成分に応じた分量とします。追肥の牛尿はきわめて速効ですから、できるだけ利用することを考えてください。

刈取り＝年内は草たけ50センチぐらいになったら逐次利用します。刈取りの高さは5センチ以上とします。収量は、岡山県酪農試験場の結果では別表のとおりです。

早まきは各刈りごとの収量も平均し、全収量も多くなっています。

(筆者県農業改良課専技)

◆ラジオ農業学校案内(9月)

NHKの「ラジオ農業学校」畜産関係9月の放送予定はつぎのとおり。

▽5日(火)＝駄鶏淘汰と点灯養鶏 高梁農林事務所技師 小郷 文雄

▽18日(月)＝「鶏の主な病気」 同
小郷 文雄

岡山畜産便り 1961.08

イタリアンライグラスの播種期と刈取期

(岡山県酪農試)

播種 刈穫	9月4日	9月19日	10月4日	3月15日
	Kg	Kg	Kg	Kg
11月28日	1,620	—	—	—
12月5日	—	1,593	—	—
4月4日	2,700	—	2,655	—
4月15日	—	2,745	—	—
5月10日	2,142	—	2,664	—
5月21日	—	2,241	—	—
6月10日	—	—	—	3,309
6月15日	1,578	—	1,413	—
6月23日	—	873	—	—
7月4日	81	—	—	—
7月5日	—	—	—	700
計	8,121	7,452	6,732	4,009